

平成23年度 第7回

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会 次第

平成23年8月30日（火）19:00～21:00

浦和コミュニティセンター 第13集会室

1 開 会

2 議 題

- (1) 「しあわせ倍増プラン2009」取組実績及び達成度等の評価について（\*評価対象事業：21事業）

3 その他

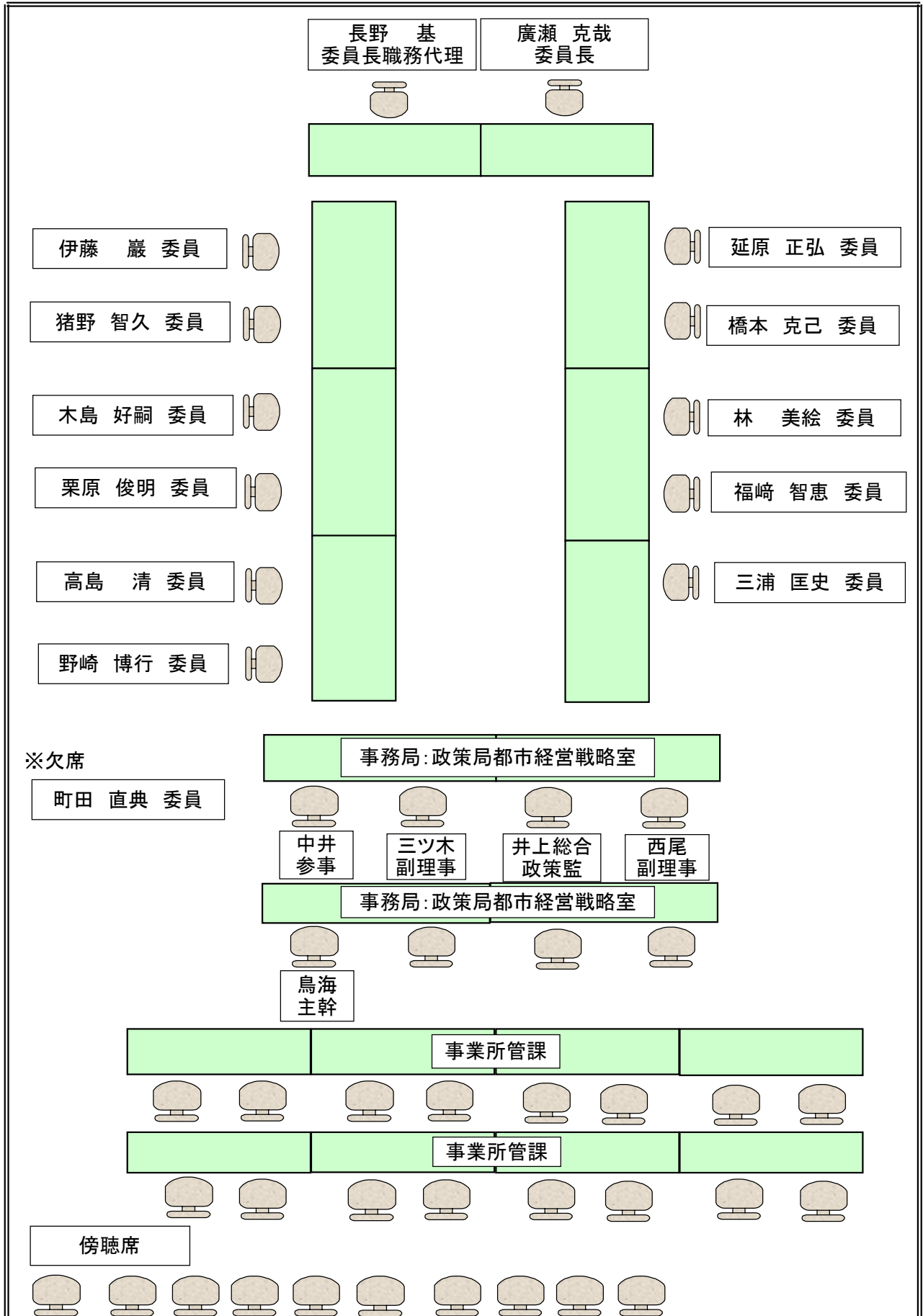
4 閉 会

**【配布資料】**

- ・ 次第
- ・ 座席表
- ・ 所管課職員出席者一覧
- ・ 委員評価取りまとめシート
  - ヒアリング実施8事業 (資料1-1)
  - 委員評価取りまとめ一覧 (資料1-2)
  - ヒアリング対象外13事業 (資料2-1)
  - 委員評価取りまとめ一覧 (資料2-2)
- ・ 開催日程別評価事業一覧 (資料3)
- ・ 追加ヒアリング候補選定一覧 (資料4)

# 平成23年度 第7回 しあわせ倍増プラン2009 市民評価委員会 座席表

日時:平成23年8月30日(火) 午後7時00分～  
会場:浦和コミュニティセンター第13集会室



平成23年度 第7回 しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会

所管課職員出席者一覧

宣言・分野	No.	項 目	所 管 課	出席者	
				職 名	氏 名
経済・雇用 (6/20)	5 4	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)			
		54-1 ものづくり企業支援事業	経済政策課	課 長	井上 政行
		54-2 テクニカルブランド企業認証事業	産業展開推進課	副参事	新井 嘉
		54-3 戦略的企業誘致	産業展開推進課	課 長	染井 洋二
		54-8 ホームヘルパー2級資格取得支援	高齢福祉課	課 長	染井 洋二
		54-11 マッチング事業	労働政策課	課 長	米谷 晃
	5 5	市内の観光資源を有効に活用し、海外も含め観光客を積極的に誘致します。(4年以内)	観光政策課	課 長	中野 薫
地域間対立を越えて (2/3)	6 0	大宮駅東口再開発は、東日本の玄関口として経済・商業都市としての機能を高める開発を推進します。(4年以内)	大宮駅東口まちづくり事務所	参事兼所長	石原 光親
	6 1	地下鉄7号線延伸は、経済性などを十分に考慮し、まちづくりと連動させて推進します。(4年以内)	地下鉄7号線延伸対策課	課 長	中野 英明
				課 長	村川 奏支

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.6-1 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	54-1	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (ものづくり企業支援事業)	4年以内	・23年度中に市内のものづくり企業の活性化と経営の安定化を図るため、事業者のニーズに対応した新たな支援制度の確立	①ものづくり企業データブックの配布 ②新たな支援制度創設に向けた検討の実施	①大規模展示会等におけるものづくり企業データブックの配布 ②工業振興事業費補助金の見直し(平成23年度から実施)	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	製造業の地図と思うが将来への受注が得られるよう望んでいる。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b	→	7	工程表のとおり進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	H23以降の実績次第で、この制度の良否が決まる。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	ものづくりデータブックの配布成果はどのように把握されているのか。補助制度を含め、23年度からはアウトカムが問われる。
福崎委員	b	→	7	参加者が満足できる制度になるよう、丁寧に検討して下さい。
町田委員	b	→	7	ものづくり企業データブックの配布など予定どおりの進捗と判断しました。このプロジェクト内容を充実した結果、どの程度の雇用創出になったのかがわかる指標が必要だと思います。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。
委員会評価 (平均点)			7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.6-2（第7回委員会：8月30日（火）開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	54-2	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (テクニカルブランド企業認証事業)	4年以内	・23年度中に市内のものづくり企業の活性化と経営の安定化を図るため、事業者のニーズに対応した新たな支援制度の確立	①企業認証数5社 ②企業支援数27社	①☆企業認証数8社 ②☆企業支援数30社	a	→	9	・平成22年度の目標を上回る認証企業数となったので「a」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	a	→	9	公的支援を含め増加した事は良い事と思う。
猪野委員	b	↗	8	全体として目標を上回っているため加点。
木島委員	a	→	9	評価理由：企業認証数の達成率160%（実績8/目標5）を評価
栗原委員	a	→	9	認証のプロセスによって、評価が変わると考えます。
高島委員	b	↗	8	認証数・支援数ともに目標より上回っているため加点とした。
長野委員	b	→	7	工程表通りの成果内容と判断する。
野崎委員	a	→	9	工程表を上回って実施されたと判断しました。
延原委員	a	→	9	今後は「さいたま市認証」というブランド価値をどうやって高めるかが課題。
橋本委員	b	↗	8	数値を上回った為、加点評価しました。認証数だけではなく経済的な効果も含めて事業成果が求められるのではないかと？
林委員	a	→	9	—
廣瀬委員	b	↗	8	認証企業にそれによる業績向上などの成果が想定以上に確認された状況ではないので、aとは評価しなかった。
福崎委員	a	→	9	認証の効果を測定する方法も構築して欲しいです。
町田委員	a	→	9	企業認定数、支援企業数など予定どおりの数の実施と判断しました。+ テクニカルブランドの認定を受けた企業が、業界のリーダーとして技術開発・経営強化・人材育成などの「競争力向上支援」を実施してもらうことで小さな企業の技術支援につなげることを目的とすることは、活性化のためにもいいことだと思います。
三浦委員	a	→	9	目標を大幅に上回った。
委員会評価 (平均点)	a		8.6	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.6-3 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	54-3	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (戦略的企業誘致)	4年以内	・24年度末までに積極的な企業誘致活動を展開し、56社 ・21年度中に産業集積拠点の基礎調査実施後、戦略的な企業誘致施策を検討	①企業立地10件 ②新たな産業集積拠点の創出に向けた継続的検討	①☆企業立地実績11件 ②☆新たな産業集積拠点の創出に向けた検討	a	→	9	・平成22年度の数値目標、企業立地10件を上回る11件の実績を上げるとともに、新たな産業拠点創出に向けた検討に成果があったため、「a」と判断

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	a	→	9	企業立地が多くなることにより雇用促進が計られることに期待する。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	a	→	9	評価理由：企業立地達成率110%に加え、医療機器産業への参入支援拠点創出を評価
栗原委員	a	→	9	—
高島委員	b	↗	8	企業立地実績が目標を上回ったので加点とした
長野委員	b	↗	8	企業立地件数では目標を上回ることができた。この中でも研究機能系3社の誘致が出来たことは産業基盤整備の意味でも今後の効果が期待できる。
野崎委員	a	→	9	工程表を上回って実施されたと判断しました。
延原委員	b	↗	8	目標を上回ったことは評価するが、a-9は高すぎる。
橋本委員	b	↗	8	厳しい社会状況下で事業計画（工程表）を進捗、数値を上回った点を加点しました。
林委員	a	→	9	大きな成果が上がっているため「a」と判断した。
廣瀬委員	b	↗	8	概ね工程表通りだが、拠点創出について明確な方針が整ったので、加点と評価した。
福崎委員	a	→	9	誘致後の経済効果の測定方法を構築してほしいです。 誘致後に経営難になった企業もあった場合、プロジェクトではどう扱うのでしょうか。
町田委員	b	↗	8	企業誘致10件を上回ったことの評価です。継続的にその地で活動できる企業の誘致の選定などに課題はありますが、財政状況への解決や活気ある街づくりへ向けて質の高い企業の誘致を希望します。
三浦委員	b	↗	8	新たな産業拠点創出の効果とは具体的にどのようなことか？ 『「(仮称)メディカル・リサーチパーク構想」着手の方針を固めた』を指しているなら、内部的な方針決定をしたに過ぎないので加点要素は僅かとする。
委員会評価 (平均点)	b		8.4	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.6-4 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	54-8	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (ホームヘルパー2級資格取得支援)	4年以内	・24年度末までにホームヘルパー有資格者を新たに600人確保	①補助制度利用者数 300人 ②制度周知	①★利用者107人 ②事業者、自治会等周知	c	→	4	・本制度の利用者が300人の目標に対して、107人と下回ったため、「c」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	→	4	職業として魅力を感じるか又喜ばれるかが肝心である。
猪野委員	c	→	4	目標に遅れがある。
木島委員	d	→	1	評価理由：利用者数の達成率36%（実績107/目標300）は大幅未達。期中に目標を大きく下回る可能性に気がつきながら、対応が遅れたことは非常に残念で、来期の教訓にして欲しい
栗原委員	c	→	4	—
高島委員	c	↘	3	目標を大幅に下回っているなのでこの評価とした。「課題」にも上げているように。遅れの理由を分析し取り戻せるよう努力を期待する。
長野委員	c	→	4	利用者数は目標に達せず。なお、事業設計上の予想と実態とのズレについて、一定の分析はなされているため、その成果を活かしての再設計が求められると思われる。
野崎委員	c	→	4	目標を大幅に下回っており、利用者数の伸びない原因を早期に抽出していただきたい。
延原委員	c	→	4	特になし。
橋本委員	c	→	4	H22年度同様数字が実現できなかった理由の分析と対策がなされなかったのかどうか、検証が必要と考えます。国のシステム全体の課題が大きいのではないだろうか。
林委員	c	→	4	—
廣瀬委員	c	→	4	目標を大幅に下回っている原因の分析を
福崎委員	c	→	4	試験会場が家から近ければ、参加者は増えると思います。
町田委員	c	→	4	利用者の実態数から判断しました。制度の周知と共に、身近なところにヘルパーさんがいることは安心感につながります。
三浦委員	c	↘	3	重要課題分野で大幅に目標を下回った。原因分析が必要。
委員会評価 (平均点)	c		3.6	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.6-5 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	54-11	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (マッチング事業)	4年以内	・24年度末までにキャリアサポート事業、雇用マッチング促進事業などを新たに実施することにより、就職支援者数を400人	①就職支援事業による就職支援者数200人	①☆就労支援事業による就職支援者数494人	a	→	9	・就職支援事業による就職支援者数が数値目標の200人を上回り、また、平成20年度実績の63人、平成21年度実績323人を大幅に上回る平成22年度494人の実績(*4年間の目標値の400人)を上げたため、「a」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	a	→	9	再就職支援と思われるがこれ迄の業務情報を有効に生かし、今後の就職に生かせれば良とすべき。
猪野委員	a	→	9	目標を大幅に上回る進捗。
木島委員	a	↗	10	評価理由：達成率247%（実績494/200）を評価
栗原委員	a	→	9	—
高島委員	a	→	9	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	b	↗	8	平成21年度実績では37875千円の事業費で323名の新規就業者（117千円/人）であったが、平成22年度は253千円/人とコストが倍になっている。各種の新規取り組みの施策まで含めての事業費のため、単純に比較はできないが、効果的な実施といえたのかについては、要検討と考える。
野崎委員	a	→	9	工程表を上回って実施されたと判断しました。
延原委員	a	→	9	特になし。
橋本委員	b	↗	8	重要な施策であり、順調に推移しているが、就労実現数の把握まで必要な事業ではないのか？目標設定に関して検討が必要なのではないか？
林委員	a	→	9	—
廣瀬委員	a	→	9	目標を大幅に上回る実績
福崎委員	b	↗	8	景気の悪化と共に利用が増えるのは当然です。目標が低すぎたようにも思います。
町田委員	a	→	9	支援者数の増加は評価できます。若人から子育て世代、そして中高年までの再就職支援セミナーなどにも充実をお願いします。キャリアアップのための支援、スキルアップ講座等の実施などへの応援事業は、評価します。
三浦委員	a	→	9	大幅に目標を上回った。 平成23年度以降は、新たな目標値の設定が必要。
委員会評価 (平均点)	a		8.9	



【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.6-6 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	55	市内の観光資源を有効活用し、海外も含め、観光客を積極的に誘致します。	4年以内	・24年度末までに年間入込観光客数を総計2,477万人 ・24年度中にスポーツコミッションを創設	①入込観光客数2,321万人 ②観光標語の決定 ③スポーツコミッション基本計画の策定 ④観光振興懇話会の設置、4回開催	①★入込観光客数2,100万人 ②観光標語の決定 ③△スポーツコミッション基本計画の策定(半年前倒し) ④観光振興懇話会の設置、4回開催	c	↑	5	・平成22年度の数値目標である入込観光客数が減少(現時点での見込み)しているため、「c」と判断。 ・ただし、スポーツコミッション基本計画を半年前倒しで策定したことを加点評価した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	→	4	スポーツの世界大会の開催について思いあたらない。
猪野委員	c	↑	5	事業の基幹であるはずの入込観光客数が減少しているため、進捗度は「c」。スポーツコミッション基本計画を半年間前倒しして策定したことを加点評価。
木島委員	d	↑	2	評価理由：主な実績①未達、さらにスタート時点(H21年度)を下回る実績は大幅未達 スポーツコミッション基本計画の策定前倒しにより加点
栗原委員	b	↓	6	—
高島委員	c	↑	5	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	c	→	4	景気と震災と言う不可抗力の面もあるが、主要な目標値としている入込観光客数の減少から低い評価とならざるを得ない。
野崎委員	b	↓	6	観光客数の伸び悩みに対しては、より多角的なPRを展開し魅力を強く発信して行く必要があります。何かしら起爆剤になるものがないと倍増は難しいと考えます。
延原委員	c	↑	5	特になし。
橋本委員	c	→	4	観光客数と行政の取り組みとの因果関係を検証する仕組みはあるのか？今後の取り組みに期待します。
林委員	b	↓	6	①は減点要素と判断。概ね進捗通りと認識。
廣瀬委員	c	↑	5	内部評価に準じた。
福崎委員	c	↑	5	観光行政は、地元商店を助けます。 観光客減少が見込まれる現在、それでも目標を目指して、知恵を絞ってください。
町田委員	c	↑	5	計画どおりの目標数値の実現であり、予定どおりと判断します。さいたま市を観光都市として位置づけるのは今の段階では実感できませんが、見沼地区やスポーツ施設など、誇れる地域はあります。行政施策やまちづくりのモデル地区としてPRすることは、活性化事業として有効でしょう。
三浦委員	c	↑	5	さいたま市の弱点といえる分野。 原因分析と効果的な取り組みを望む。
委員会評価 (平均点)	c		4.8	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.6-7（第7回委員会：8月30日（火）開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	60	大宮駅東口再開発は、東日本の玄関口として経済・商業都市としての諸機能をも高める開発を推進します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・22年度末までに大宮駅周辺公共用地利用基本計画の策定</li> <li>・23年度待つまでに大宮駅東口駅前広場用地の買収開始</li> <li>・24年度末までに氷川緑道西通線用地の100%取得及び大門町2丁目中地区再開発組合の設立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①（仮称）大宮駅周辺公共用地利用基本計画の策定</li> <li>②大門町2丁目中地区市街地再開発基本計画案の作成</li> <li>③氷川緑道西通線の用地取得</li> <li>④大宮駅東口駅前広場整備に向けた準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①公共用地利用計画の庁内検討 ★計画未策定</li> <li>②再開発基本計画案の作成に向けた検討・調整 ★計画案未作成</li> <li>③氷川緑道西通線（南区間）の用地買収</li> <li>④関係権利者等との協議</li> </ul>	c	→	4	・平成22年度の事業計画に一部遅れが生じていることから「C」と判断しました。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	→	4	時代の変化と共に将来を見て計画見直しも必要。
猪野委員	c	→	4	目標項目の半数に遅れがあり、「c」と判断。
木島委員	d	→	1	評価理由：目標四つのうち二つ（計画策定と計画案作成）が遅延している状況は大幅遅延
栗原委員	c	→	4	困難な事業とは思いますが、当事者として、速やかな推進を望んで止みません。
高島委員	c	↘	3	計画の遅れが顕著なのでこの評価とした。
長野委員	c	→	4	基本計画の策定作業は予定より遅延を生じている。利害関係者との合意形成が必要な内容であるため、拙速は避けなければならないが、工程表に照らすと作業の遅れは否めない。
野崎委員	c	→	4	地権者との合意形成、地元との協議が課題。工程表の遅れを勘案すると事業達成は困難なのは。
延原委員	c	→	4	特になし。
橋本委員	c	→	4	計画未策定・計画案未作成から事業自体の遅れがあります。スピード感ある取り組みに期待します。
林委員	c	→	4	—
廣瀬委員	c	→	4	計画の未作成など進捗の遅れ
福崎委員	c	↗	5	開発計画には、十分な時間をかけて検討してほしいです。
町田委員	c	↗	5	過去の経過や地域性など、多くの問題が内在することです。先を急ぐあまり感情のしこりがあるとしても問題となります。予定どおり進捗していると判断します。環境・生活・自然など多岐に渡る影響を考慮し、効果的なまちづくりにつなげていただきたい。
三浦委員	c	→	4	事業計画の遅れを分析し、平成23年度以降の工程を組み直すことが必要。
委員会評価 (平均点)	c		3.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.6-8 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	61	地下鉄7号線は、経済性などを十分に考慮し、まちづくりと連動させて推進します。	4年以内	・経済性などを十分に考慮し、まちづくりと連動させた上で、24年度末までに事業着手を目指す	①採算性を確保するため、集客施設の誘致などの需要確保の検討 ②快速運転導入のため、実現可能な運行計画の検討	①住宅系のまちづくりに加えて産業集積拠点に関する検討を実施 ②鉄道事業者からの意見聴取を踏まえた検討を実施 ③△市ホームページの改善	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	現状と将来を考え発展性も考慮すべきである。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	計画当初からは、周辺および社会情勢の大きな変化が会ったと思います。現実に即した進行または修正を期待します。
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	概ね工程表通りの作業内容と判断する。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	本当に長期にわたり黒字が確保されるかのシュミレーションを公開することがポイント。建設ありきでは失敗する。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	検討などは予定通り進められている
福崎委員	b	→	7	「さいたま市」の区画が更に意味あるものになる事業かと思います。
町田委員	b	→	7	具体的な市民合意との中身は数年後です。その準備段階としては予定どおりと判断します。利便性、経済の発展、環境問題、これらを必要性和許容性を比較衡量し、多くの要因を総合的に把握して有意義な施策としてもらいたい。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	



【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.6-1 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	54-4	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (産学連携によるイノベーション創出)	4年以内	・23年度末までに産学連携によるイノベーション(技術革新)の継続的創出を図る仕組みの構築	①研究開発人材高度化タスクフォース事業3件 ②企業間の技術マッチング支援30件 ③目利きサポート事業実施	①△研究開発人材高度化タスクフォース事業の確立(1年前倒し)・5件実施 ②企業間の技術マッチング支援数36件 ③目利きサポート事業の調整	b	+	8	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。また、1年前倒しで、「研究開発人材高度化タスクフォース事業」を確立し、目標を上回る採択件数を達成できたため、加点評価しました。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	+	8	専門的な知識を企業と一体となって発掘していく方が多く求められる時代として連携が必要と思う。
猪野委員	a	→	9	タスクフォース事業の確立を一年前倒しし、採択件数も目標値を上回っている。企業間の技術マッチング支援数も目標を上回っているため、全体として事業は大幅に進捗しているといえる。よって「a→9」とした。
木島委員	a	→	9	評価理由：①の達成率167%、および②の達成率130%を評価
栗原委員	a	→	9	—
高島委員	b	+	8	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	b	+	8	年度別個別目標をそれぞれ上回るアウトプットを得ている。
野崎委員	b	+	8	工程表のとおり実施されたと判断しました。且つ、事業を前倒しで実施されたと判断しました。
延原委員	b	+	8	埼玉大のみに限られているので、「学」側の拡大が課題(競争的資金)。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	+	8	—
廣瀬委員	b	+	8	内部評価に同じ
福崎委員	a	→	9	実施企業と大学の、モチベーション維持に努めてください。
町田委員	b	+	8	工程どおりと判断します。研究開発人材の育成やマッチング支援など、今後の発展に期待します。
三浦委員	b	+	8	概ね工程通り進捗し、一部前倒しがあり加点。
委員会評価(平均点)	b		8.2	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.6-2 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	54-5	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。 (新規就農者支援事業)	4年以内	・23年度末までに新規就農者が参入しやすい農業環境を整備するための実施方針策定 ・24年度中に新規就農者数を20人	①就農相談会1回実施 ②新規就農者数10名 ③就農、雇用方針の検討 ④「ファーマーズ」マーケットの開催	①就農相談会3回実施 ②△新規就農者数19名 ③▼就農、雇用方針を策定するWG設置・検討実施(1年遅れ) ④新たな農産物直売の実施	b	→	7	・平成22年度の数値目標等である新規就農者数10名を上回る19名の実績を加点評価。ただし、就農、方針を策定するための組織が1年遅れでの設置となったため減点し「b」と判断しました。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	就農者の現状を把握して今後の対策を講ずるべきと思う。
猪野委員	b	→	7	就農相談会の実施回数及び新規就農者数が目標値を上回っているので加点。一方WGの設置が一年遅れていることを減点し、「b→7」とした。
木島委員	b	↗	8	評価理由：新規就農者数の達成率190%は目標を上回る評価だが、就農、雇用方針の遅れによりbの加点とする
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	b	↗	8	施策検討のための見当組織の設置作業は遅れがあったものの、本事業の成果としての新規就農者は目標のほぼ倍の成果を得ている。
野崎委員	b	→	7	工程表のとおり実施されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	c	↗	5	実施方針の策定が大幅に遅れている点でc評価。課題対策に関して方針がなされていないのは大きな課題ではないのか？その他の取り組みを加点しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	就農者数は目標を上回ったが、方針策定の作業が遅れているため、加減差引ゼロ
福崎委員	a	→	9	今年度の目標を上回った上に、昨年度の遅れも取り戻したのであれば、むしろ加点すべきだと思います。
町田委員	b	→	7	計画に進捗の差はあるものの、総じて予定通りと評価します。食と農に興味を持ち支援してもらい一般市民の総数を増加してもらいたいと願う。環境の点からも農の重要性を問う視点での施策としてもらいたい。
三浦委員	b	→	7	新規就農で目標を上回ったが、減点要素もあり。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.6-3 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	54-6	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 。(事業所内保育施設推進)	4年以内	・23年度末までに複数企業集合体による事業所内保育施設への新たな支援制度の構築	①施設整備補助(国、県の補助含む)の活用による、新規開設1施設 ②新たな支援制度の構築に向け、積極的な広報活動	①1施設開設 ②さいたま商工会議所会員へのPR	b	→	7	・施設整備補助を活用し1施設開設され、目標は達している。また、事業者の現況、ニーズを聴取し支援体制構築に向けた活動、施設整備費等のPRを行ったことから、「b」とした。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	保育所の増加は良とするが親子の絆が希薄になることも考えるべきである。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの所期の成果を得ている。
野崎委員	b	→	7	工程表のとおり実施されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りの進捗
福崎委員	b	→	7	持続的な取り組みに期待します。
町田委員	b	→	7	1箇所予定でしたが、実施できたことに評価します。今後の増加に期待します。企業内保育所の充実、小さな子どもを持つ親にとっての雇用創出になります。市内では一般的となるよう積極的に実施することで、さいたま市のイメージアップにもつながります。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。 資料P.13の工程表、H22(実績)は「1か所の整備」ではないのか?
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.6-4 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	54-7	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (介護福祉士資格取得支援)	4年以内	・21年度資格取得講座を実施し、筆記試験対策講座200人、実技試験対策介護技術講習80人受講 ・22,23年度は、実技試験免除講座を実施し、各年度160人受講	・受講者160人	・★受講者133人	c	→	4	・平成22年度の受講者が133人と目標の160人に達しなかったため「c」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	→	4	介護者を多くすることより自分自身がいかにか生きがいを見出すことが大事かを認識すべきと思う。
猪野委員	c	→	4	目標に遅れがある。
木島委員	c	→	4	評価理由：達成率83%で未達
栗原委員	c	→	4	20000円というのは、資格取得試験をうけるための助成金、という判断で良いのでしょうか？
高島委員	c	→	4	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	c	→	4	受講者数が目標に達せず。なお、昨年度に引き続き、C評価であることから、その理由・背景の検討を要するものと思われる。
野崎委員	c	→	4	前年度に引き続き目標に達していないと判断しました。前年よりも受講者が減少しており次年度の目標達成も難しいのでは。
延原委員	c	→	4	2年連続未達の重さを理解するべき。
橋本委員	c	→	4	H21年度同様数字が実現できなかった理由の分析と対策がなされなかったのかどうか、検証が必要と考えます。国のシステム全体の課題が大きいのではないだろうか。
林委員	c	→	4	—
廣瀬委員	c	→	4	定員を満たさなかったことに、制度設計上の問題はないのか。検討の上必要な対応をとるべきではないか。
福崎委員	c	→	4	受講しなかった人がいたのは、部局の責任ではないと思いますが、同じことが次年度に起こると想定して、何か対策を検討したような報告があれば、bにしました。
町田委員	c	→	4	人数の実現が約8割なので目標には満たないと判断します。高齢化社会の到来により介護福祉士はさらなるニーズが必要となります。各施設に必要な数が配置されることに期待します。
三浦委員	c	→	4	重要課題分野で目標を下回った。 原因分析が必要。
委員会評価 (平均点)	c		4.0	



【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.6-5 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	54-9	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (福祉介護人材の養成確保)	4年以内	・24年度末までに地域福祉情報・研修センターで就業支援研修等17講座実施 ・国に対して介護報酬の引上げ要望	①資格取得や研修開催に関する情報発信 ②介護報酬の引上げに関する国への要望活動	①資格取得や研修開催に関する情報発信 ②介護報酬の引上げに関する国への要望活動	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	判りません。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの作業内容である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	地域福祉情報研修センターホームページは良くできていると思われるが、そのページへの誘導については改善の余地があるのではないか。
福崎委員	b	↘	6	毎年要望するならば、実績の欄に、昨年度の要望活動をこのように生かした、という旨の報告が欲しいです。
町田委員	b	→	7	情報発信では、どのようなことを実施したかが大切です。福祉介護人材の養成を行政が行うことで人々への直接的な周知になります。人材確保を早期に行うことで効果的な啓発活動に繋げていただきたい。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。 平成22年度までは、評価に値する事業内容を有さないと考える。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.6-6 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	54-10	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実施します。 (ものづくり人材支援事業)	4年以内	・23年度中に市内企業や試験研究機関などと連携し、優秀な産業人材を市内企業へと輩出する新たな仕組みの構築	①高度な技術研修2回実施 ②インターンシップ等2校実施	①高度な技術研修2回実施 ②インターンシップ等2校実施	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	実施方策等が明確でない為、判りません。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの作業内容である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	実際の仕事内容や、研究内容を知ること、学生のものづくりへの興味や就職意欲が高まるとも良い取組みと感じた。
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りの進捗
福崎委員	b	→	7	子どもに喜ばれる事業は、ますます充実してほしいです。
町田委員	b	→	7	予定どおりの実施と判断します。優秀な人材を市内企業に就労させるためにも、若人を対象にした技術研修は、将来を考えるきっかけとなる。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.6-7 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	56-1	起業家応援のための「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」を実施します。 (人材育成支援)	4年以内	・24年度末までに創業ベンチャーサポート塾の開設などにより、創業件数を210件 ・23年度から創業応援事業を開始	①創業件数30件 ②ニュービジネス大賞応募件数50件 ③創業ベンチャーサポート塾の開校	①☆創業件数46件 ②ニュービジネス大賞応募件数49件 ③創業ベンチャーサポート塾の開校	a	→	9	・創業件数において、平成22年度の数値目標等を上回る実績をあげたため、「a」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	a	→	9	長く続く企業が望まれるが時代の流れや自然界との関わりが大切と感じる。
猪野委員	b	↗	8	全体としては進捗度はb。創業件数が目標値を上回っているので加点。
木島委員	b	→	7	評価理由：56-1と56-2をあわせて評価 56-1①56-2①創業件数達成率153% (実績46/目標30) a評価、56-1②ニュービジネスb評価、56-1③ベンチャーサポート塾b評価、56-2②新製品c評価、56-2③インキュベーションc評価 コメント：56-1と56-2は目標がかぶっているが、それぞれに目標を設定することが出来ない(分けることが出来ない)とのこと。そのため、56-1と56-2はあわせて評価を行った。
栗原委員	b	↗	8	—
高島委員	b	↗	8	創業件数が目標を上回ったので加点とした。
長野委員	a	→	9	目標を上回る創業件数を実現できた。
野崎委員	a	→	9	概ね工程表を上回って進捗されたと判断しました。今後は、セミナーの充実に努めていただきたい。
延原委員	a	→	9	特になし。
橋本委員	b	↗	8	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。 数値が上回ったので加点評価しました。
林委員	a	→	9	ベンチャー創業により、経済が活性化するので高く評価。 SNB大賞の受賞したプラン内容もとても面白く、今後のさいたま市の発展や市内他社への影響も大いに期待できる。
廣瀬委員	b	↗	8	創業研修は目標値を上回っているが、累計210件に向けて大幅に上回るとまでいえるか？
福崎委員	b	↗	8	今後も同等の応募数が見込まれるのでしょうか？
町田委員	b	↗	8	創業件数の増加について1.5倍の増加は評価します。しかし、アフターフォローが大切でもありこの点についてのサポートが重要。夢と希望のもてる社会を目的にして、起業人への育成にとりくんでもらいたい。
三浦委員	b	↗	8	目標をやや上回った。
委員会評価 (平均点)	b		8.3	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.6-8 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
7 経済・雇用	56-2	起業家応援のための「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」を実施します。(創業環境支援)	4年以内	・23年度からインキュベーションシステム事業を拡充し、24年度末までに累積創業件数を210件 ・24年度末までに創業者を対象とした新製品開発補助を10件実施	①創業件数30件 ②新製品開発補助2件 ③インキュベーション事業の拡充(施設利用10件)	①☆創業件数46件 ②▼新製品開発補助1件 ③▼インキュベーション事業の拡充(施設利用8件)	b	→	7	・創業件数において、平成22年度の数値目標等を上回る実績をあげたものの、新商品開発補助事業、インキュベーション事業の拡充において、数値目標を下回ったため、「b」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進 捗 度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	計画どおりとの判断。(日本語で書くべき)
猪野委員	c	↗	5	全体として遅れている。創業件数が目標を上回っている点を加点要素とした。
木島委員	b	→	7	評価理由:56-1と56-2をあわせて評価 56-1①56-2①創業件数達成率153%(実績46/目標30) a評価、56-1②ニュービジネスb評価、56-1③ベンチャーサポート塾b評価、56-2②新製品c評価、56-2③インキュベーションc評価 コメント:56-1と56-2は目標がかぶっているが、それぞれに目標を設定することが出来ない(分けることが出来ない)とのこと。 そのため、56-1と56-2はあわせて評価を行った。
栗原委員	c	→	4	創業件数の成果を、56-1と分けて考えることが難しいのであれば、一つの事業とすれば良いと思います。現状では評価の水増しともとれてしまうので、この項目においては創業件数を抜いて判断しました。
高島委員	b	→	7	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	b	↗	8	創業環境支援の事業趣旨からすれば、創業件数が目標を上回ったことは重要な成果と考える。なお、インキュベーション施設の利用率が目標を下回った中で、今後の加太おつ手、インキュベーション施設の増設を今後の目標とすることが適切か、要検討と考える。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	↘	6	創業件数(30→46)評価は56-1ですすでに使われている。それを除くと完全なる未達。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	↘	6	②③により、環境支援としては遅れていると判断。
廣瀬委員	b	→	7	内部評価と同じ
福崎委員	b	↘	6	46件のうち、何件がインキュベーション事業によるものなのか、報告が不十分です。
町田委員	b	→	7	予定どおりの進捗状態と評価します。インキュベーションシステム事業という、起業初期段階での支援事業は、大切です。少しでも多くの人々が希望をもち創業するような人事が育つことを期待します。
三浦委員	b	→	7	総合して概ね工程通りと評価。
委員会評価 (平均点)	b		6.5	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.6-9（第7回委員会：8月30日（火）開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	57-1	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。 (コミュニティビジネス育成事業)	4年以内	・23年度末までにコミュニティビジネス育成の新たな支援制度構築	・地域密着型事業活動提案モデル事業実施件数2件	・△地域密着型事業活動提案モデル事業実施件数4件	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	地域密着といいながら、地域で理解できない。
猪野委員	b	↗	8	目標値を上回っているので加点。
木島委員	a	→	9	評価理由：モデル事業目標の倍の達成を評価
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	↗	8	モデル事業実施件数が目標を上回っているので加点とした。
長野委員	b	→	7	概ね工程表通りの内容と判断する。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	↗	8	目標2件で実績4件なのでプラス評価。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	内部評価に同じ
福崎委員	b	↗	8	事業のすみ分けという課題は、重要なポイントだと思います。
町田委員	b	→	7	予定どおりの進捗と判断します。地域により密着した事業とし、市内で起業するだけでなく、その事業活動が市民の生活に密着したものであるような支援をするように、起業サポートを充実していただきたい。
三浦委員	b	↗	8	目標をやや上回った。
委員会評価 (平均点)	b		7.5	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.6-10（第7回委員会:8月30日(火)開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	57-2	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。 (コミュニティビジネス促進事業)	4年以内	・24年度末までにコミュニティビジネス賞の応募件数を100件	①起業家セミナー1回開催 ②専門家相談会2回開催 ③コミュニティビジネス賞 応募件数18件	①起業家セミナー2回開催 ②専門家相談会1回開催 ③コミュニティビジネス賞 応募件数18件	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	起業家が考えている内容が自治会での問題とは一致してないと感ずる。
猪野委員	b	→	7	起業家セミナーの開催数が目標値を上回っており加点。一方で専門化相談会は目標を下回っているため減点。従って「b→7」。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	概ね工程表通りの内容と判断する。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	コミュニティビジネス賞の応募件数が着実に伸びてきていることは評価できる
福崎委員	b	→	7	実施日を土曜にする点が、市民目線で、ありがたいです。
町田委員	b	↗	8	セミナー開催などは予定数より多いため、加点としました。地域密着型の企業形態としてどのようなものが考えられるか、そのアイデアを広く人々に提案してもらおうという発想は面白いと考えます。より多くの提案によりこの制度が活性化することを願います。
三浦委員	b	→	7	総合して概ね工程通りと評価。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.6-11 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
7 経済・雇用	58	中小企業・小規模事業者への融資制度を充実します。	4年以内	・23年度から研究開発を実施する市内中小企業者等向けの融資制度創設 ・22年度から既存の創業支援資金融資制度について融資限度額の見直しや条件緩和の実施	①新融資制度の創設 ②既存融資制度の充実	①研究開発資金融資制度創設 ②緊急特別資金融資の充実(利率1.5%から1.3%に引き下げ)	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	計画通りと判断。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの成果内容と判断する。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	研究開発資金融資のみならず、研究開発投資に対する減税も追加検討の要あり。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りの取り組み
福崎委員	b	→	7	利用者を助ける制度であるよう、常に考察を続けてほしいです。
町田委員	b	→	7	融資制度が制定され、具体的な利率も制定されたため予定どおりと評価します。中小企業が、研究開発や新たな知見を見出すことこそ、大企業に対抗できる戦略です。研究や情報を得るためにも財源への支援が有効に使用されることに期待します。
三浦委員	b	↗	8	テクニカルブランド認証企業を対象とした研究開発資金融資制度(新規融資制度)を前倒して創設したので加点評価。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.6-12（第7回委員会:8月30日(火)開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
7 経済・雇用	59	企業のCSR活動の認証制度を創設・推進します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・23年度から市内企業向けCSR活動をHPで公表</li> <li>・22年度から市内企業を対象としたCSRセミナーを開催</li> <li>・23年度中に本市独自のCSR活動認証制度創設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①CSRホームページ作成・公表</li> <li>②CSRセミナー開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①CSRの普及促進を図るため「地域と共生する事業活動」紹介ホームページを開設(平成23年3月)</li> <li>②CSRセミナー開催(平成23年1月)</li> </ul>	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	計画通りと判断。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの作業内容である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	CSR促進企業を市HPで紹介するのみでなく、市の広報として、マスメディアに取り上げられるようすべき。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	ホームページの成果を把握することが求められる
福崎委員	b	→	7	ホームページ開設を実績とするなら、今後、閲覧者を増やすための努力も報告してください。
町田委員	b	→	7	平成23年度からの本格事業に向けて動きだしたことは予定どおりと評価します。企業活動が社会に影響を及ぼす範囲を多面的に考えなおすきっかけとしてCSR事業の提案はいい機会なのだと思います。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	



【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.6-13 (第7回委員会:8月30日(火)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			評価理由
							進捗度	加 点 減 点	点 数	
7 経済・雇用	62	市庁舎のあり方は、地域的対立を越えた視点から、市民の声を聞きながら検討します。	4年以内	・庁舎整備検討委員会を適宜開催して、幅広く意見を聴くとともに、議員による合併協定書の議論、行政による庁内検討会議での調査・検討、そして、市民参加による庁舎整備検討委員会での検討といったそれぞれの議論の積み重ねを踏まえ、社会経済情勢の動向等も見極めながら、総合的な視点で庁舎のあり方について検討	①庁内検討会議の開催(適宜開催予定) ②さいたま市庁舎整備検討委員会の開催(年度3回開催予定)	①H22年5月、11月に開催 ②▼H22年11月に開催(1回)	b	↓	6	・委員会において、幅広く意見を収集し、検討を行なったため「b」と判断したが、予定の開催目標回数を達成できなかったため減点評価した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進 捗 度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	c	→	4	合併時の約束事を守るべきである。
猪野委員	b	↓	6	さいたま市庁舎整備検討委員会の開催数が目標を下回っており、減点。
木島委員	c	↗	5	評価理由：さいたま市庁舎整備検討委員会の開催未達(実施1回/目標3回)。震災の影響を考慮し加点。
栗原委員	b	↓	6	—
高島委員	b	↓	6	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	b	↓	6	会議の開催自体が目標となっているため、会議開催数の点から減点と判断する。
野崎委員	c	↗	5	震災を踏まえて、耐震を視野に入れた補強か、建て替え、移設の結論を早急に出す必要がある。
延原委員	b	↓	6	旧大宮、旧浦和の主導権争いから独立した検討がなされる事が最重要。
橋本委員	b	↓	6	内部評価に準じました。透明性が求められる事業なので情報開示を意識して取り組んで欲しい。
林委員	b	↓	6	—
廣瀬委員	b	→	7	概ね予定通り検討は進められていると評価できるのではないかと。
福崎委員	c	↗	5	話しあいの難しい会議かと思いますが、続けて取り組んでほしいです。
町田委員	b	↓	6	具体的な検討会を実施できたため予定どおりと評価します。庁舎建築に限らず、市の施設について既存ストックの有効活用という点においても熟考をお願いしたい。
三浦委員	c	↗	5	3回予定していた委員会が1回しか開かれていない。1回は震災の影響で延期になったと推察するが、そもそも年度中2回しか予定されていなかった。今後この事業の推進には、まず委員会での議論を活性化する必要がある。c-5と評価。
委員会評価 (平均点)	b		5.6	



## 平成23年度 市民評価委員会開催日程(予定)

	期日・時間	内容及びヒアリング対象事業(案)		
第1回 (終了)	6月6日(月) 19:00~21:00	・委嘱状交付式 ・評価の実施手法 ・今後の進め方		
第2回 (終了)	6月24日(金) 19:00~21:00	項目数 (事業数)	宣言・ 分野別	個別事業名 (事業番号 事業数)
		3項目 (10事業)	条例宣言 行財政改革	①ノーマライゼーション条例 (No.Ⅱ-3 1事業) ②行財政改革推進チームの設置 (No.1-1~1-5 5事業) ③すべての窓口業務を区役所で (No.2-1~2-4 4事業)
第3回 (終了)	7月8日(金) 19:00~21:00	4項目 (7事業)	行財政改革 子ども	④マッチングファンド制度創設 (No.15 1事業) ⑤児童虐待ゼロを目指し、職員を増員 (No.20-1~20-2 2事業) ⑥子ども博物館構想の推進 (No.22 1事業) ⑦待機児童ゼロプロジェクト (No.24-1~24-3 3事業)
第4回 (終了)	7月22日(金) 19:00~21:00	5項目 (7事業)	高齢者 健康・ 安心・安全	⑧介護する人への支援体制を充実 (No.31 1事業) ⑨高齢者サロン、介護サロン (No.33-1~33-2 2事業) ⑩シルバー人材センター (No.34 1事業) ⑪シニアユニバーシティの充実 (No.35 1事業) ⑫健康寿命の延伸~元気倍増大作戦~ (No.37-1~37-2 2事業)
第5回 (終了)	8月5日(金) 19:00~21:00	5項目 (10事業)	健康・安 心・安全 環境・ まちづくり	⑬危機管理体制の構築 (No.39-1~39-6 6事業) ⑭民間住宅の耐震化補助事業拡充 (No.40 1事業) ⑮市内照明のLED化 (No.42 1事業) ⑯太陽光発電設備の設置推進 (No.43 1事業) ⑰新規建設事業費1%を文化・芸術のまちづくりに配分 (No.47 1事業)
第6回 (終了)	8月19日(金) 19:00~21:00	5項目 (6事業)	環境・ まちづくり 経済・雇用	⑱市民が憩える場所づくりプロジェクト事業 (No.49-1 1事業) ⑲「高度地区」による高さ制限を導入 (No.50 1事業) ⑳生活密着型インフラ整備を推進 (No.51-2 1事業) ㉑都市計画道路を抜本的に見直し (No.52 1事業) ㉒自立生活支援プロジェクト事業 (No.53-1~53-2 2事業)
第7回	8月30日(火) 19:00~21:00	4項目 (8事業)	経済・雇用 地域間対立	㉓雇用倍増プロジェクト (No.54-1~54-3, 54-8, 54-11 5事業) ㉔観光客の誘致 (No.55 1事業) ㉕大宮駅東口開発 (No.60 1事業) ㉖地下鉄7号線 (No.61 1事業)
《合計》		26項目 (48事業)		
	9月14日(水) 19:00~21:00	予備日		
第8回	9月22日(木) 19:00~21:00	取りまとめ		
第9回	10月6日(木) 19:00~21:00	取りまとめ		
	10月13日(木) 19:00~21:00	予備日		
	10月15日(土) 13:30~15:30	◎「市民評価報告会」		

※上記項目数は関連事業のある項目やプロジェクト事業を1項目と計上しています。

※ヒアリング対象事業(案)は現時点での候補であり、今後、委員会での議論を踏まえ、ヒアリング事業の追加・割愛をすることもありますので、あらかじめご了承ください。

※第1回~第9回までの会場はいずれも浦和コミュニティセンター第13集会室、市民評価報告会は同センターの多目的ホールを予定しておりますが、委員会の進行状況等により、日程等を変更する場合があります。

## 《第2回 6月24日(金) 開催分》

※   網掛けは評価実施済みの事業

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
行動宣言 (5)	I-1	マニフェスト検証大会を毎年開催。(4年以内)			1		b	7.1
	I-2	タウンミーティングを全10区で計40回開催。(4年以内)			2		b	7.0
	I-3	現場訪問を400回実施。(4年以内)			3		b	7.1
	I-4	学校訪問を全校実施。(4年以内)			4		b	7.1
	I-5	職員との車座集会を100回開催。(4年以内)			5		b	7.0
条例宣言 (7)	II-1	市長任期を3期までとする、多選自粛条例を制定します。(すぐ)			6		d	0.6
	II-2	生涯スポーツを推進し、スポーツを活用した総合的なまちづくりを推進する「さいたま市スポーツ振興まちづくり条例」を制定します。(すぐ)			7		b	5.6
	II-3	障がい者も健体者も共に地域で暮らせるノーマライゼーション条例を制定します。(すぐ)			8	1	b	7.1
	II-4	一人ひとりの子どもが輝くために「子ども総合条例」を制定します。(2年以内)			9		c	3.9
	II-5	「文化都市創造条例」を制定します。(2年以内)			10		c	4.8
	II-6	さいたま市の憲法「自治基本条例」を市民参画で制定します。(3年以内)			11		b	6.4
	II-7	他市に類をみないスピードで進む高齢化に備えて「安心長生き条例」を制定します。(4年以内)			12		b	6.9
行財政改革 (14/28)	1	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。(すぐ)	1-1	行財政改革推進本部の設置	13	2	a	8.5
			1-2	事務事業評価の見直し	14	3	b	8.3
			1-3	補助事業の見直し	15	4	b	7.6
			1-4	外郭団体改革	16	5	b	6.9
			1-5	公共施設マネジメント会議設置	17	6	b	7.1
	2	すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。(すぐ)	2-1	窓口改革・権限移譲(統括)	18	7	b	7.0
			2-2	予算	19	8	b	7.0
			2-3	組織・人事	20	9	b	5.9
			2-4	くらし応援室の設置	21	10	b	6.9
	3	区長マニフェストを全区長が策定するようにします。(すぐ)			22		b	5.9
	4	市長の退職手当を50%減額します。(すぐ)						
	5	市長給与を10%減額します。(すぐ)						
	6	指定管理者の指定などにおける透明性を確保します。(すぐ)			23		b	6.9
	7	一職員一改革提案制度を創設します。(すぐ)			24		b	8.2
8	政令市初の予算編成過程の透明化も含め、徹底的な情報公開を行います。(すぐ)	8-1	予算編成過程の公開	25		b	7.2	
		8-2	会派要望への対応状況の公表	26		b	6.1	

≪第3回 7月8日(金) 開催分≫

※   網掛けは評価実施済みの事業

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
行財政改革 (12/28)	9	情報公開日本一を実現します。(2年以内)	9-1	情報提供体制の整備	1		b	7.5
			9-2	都市経営戦略会議の審議内容等の公表	2		c	3.9
			9-3	パブリックコメントの充実	3		c	3.9
			9-4	パブリシティの推進	4		b	6.9
			9-5	身近な道路整備要望への対応状況の公表	5		b	8.2
			9-6	市へ寄せられた意見とその対応状況の公表	6		b	7.0
	10	外郭団体の長への市長・副市長の兼職を廃止します。(2年以内)			7		a	8.6
	11	職員の自動的な天下りを廃止します。(2年以内)			8		b	6.9
	12	行政職への民間人登用を含め、実力ある人を適材適所に配置します。(2年以内)	12-1	行政職への民間人登用	9		b	6.9
			12-2	民間企業等経験者の採用	10		b	7.7
			12-3	適材適所の人事配置	11		b	7.1
	13	電子市役所を構築します。(4年以内)			12		b	6.8
	市民・自治 (3)	14	区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた、検討会議を設置します。(すぐ)			13		b
15		市民活動を推進するための「マッチングファンド制度」を創設します。(2年以内)			14	1	c	4.4
16		大学コンソーシアムの仕組みを構築します。(4年以内)			15		b	7.0
子ども (24)	17	子どもの好奇心を伸ばすために、プロのスポーツ選手やアーティストなどによる授業を拡大します。(すぐ)			16		b	7.0
	18	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。(2年以内)	18-1	読み・書き・そろばんプロジェクト	17		b	6.1
			18-2	なわとび・逆上がりプロジェクト	18		b	7.1
			18-3	あいさつ・礼儀	19		b	7.0
			18-4	早寝・早起き・朝ごはん	20		b	7.0
	19	「放課後子ども教室」を増増します。(2年以内)			21		b	6.9
	20	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員(保健師、児童相談所員など)を増員します。(2年以内)	20-1	児童相談所の充実	22	2	b	7.1
			20-2	保健所の充実	23	3	b	7.0
	21	家庭・地域・学校が連携して取り組む「土曜日寺子屋」を実施します。(4年以内)			24		b	7.0
	22	子どもの創造力を高める「子ども博物館構想」を推進します。(4年以内)			25	4	c	4.2
	23	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。(4年以内)	23-1	1日保育士体験	26		b	7.1
			23-2	子育て支援センターの活用	27		a	8.7
			23-3	ワークライフバランスの認知度向上	28		b	6.1
			23-4	親の学習などのアドバイザー育成・親育ち支援策	29		b	7.0
24	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。(4年以内)	24-1	認可保育所	30	5	a	8.7	
		24-2	ナーサリールーム・家庭保育室	31	6	a	8.9	
		24-3	放課後児童クラブ	32	7	c	4.1	

≪第3回 7月8日(金) 開催分≫

※   網掛けは評価実施済みの事業

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
	25	北九州方式を参考とした小児救急体制や、産科救急体制を整備します。(4年以内)	25-1	小児救急	33		b	7.1
			25-2	産科救急	34		b	7.1
	26	高校教育の底上げを図り、質の高い特色のある学校づくりを推進します。(4年以内)			35		b	6.9
	27	一人ひとりの子どもが輝くために、心のサポート推進事業を充実します。(4年以内)			36		c	4.9
	28	ノーマライゼーションの理念の共有化に向け、障害のある人もない人も、誰もが同じように住み慣れた地域で暮らし学べるよう、特別支援教育を充実します。(4年以内)			37		b	7.0
	29	学校教育における食育を推進します。(4年以内)			38		b	6.8
	30	メディアリテラシー教育の充実と携帯・ネットアドバイザー制度を創設します。(4年以内)			39		b	7.0

※   網掛けは評価実施済みの事業

## 《第4回 7月22日(金) 開催分》

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
高齢者 (7)	31	介護する人への支援体制を充実します。(すぐ)			1	1	b	7.0
	32	配食サービスの拡充を図り高齢者の自立を支援します。(すぐ)			2		b	7.0
	33	空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。(4年以内)	33-1	高齢者サロン	3	2	b	7.1
			33-2	介護者サロン	4	3	b	6.8
	34	シルバー人材センターの充実や団塊の世代の市民活動の推進など、高齢者が地域で働く場を増やします。(4年以内)			5	4	c	4.5
	35	シニアユニバーシティを充実します。(4年以内)			6	5	c	4.6
	36	高齢者を対象とした、(仮称)シルバー元気応援ショップ制度(割引制度)を創設します。(4年以内)			7		b	7.4
健康 ・安全・安心 (8/17)	37	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～(4年以内)	37-1	食生活・運動	8	6	b	7.0
			37-2	介護予防	9	7	c	4.3
	38	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を増殖します。(4年以内)	38-1	多目的広場整備方針の決定	10		b	6.1
			38-2	都市公園内のグラウンド等の個人への開放	11		b	7.6
			38-3	民有地を活用した多目的広場の整備	12		b	6.9
			38-4	「(仮称)スポーツふれあい広場」の整備	13		b	7.1
			38-5	大学との連携による多目的広場の整備	14		c	3.9
			38-6	農業関連施設へのスポーツもできる多目的広場の整備	15		b	7.0

※   網掛けは評価実施済みの事業

## 《第5回 8月5日(金) 開催分》

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
健康 ・安全・安心 (9/17)	39	万全な危機管理体制を構築します。(4年以内)	39-1	総合防災情報システムの構築	1	1	b	6.9
			39-2	危機事案発生時の初動体制の確保	2	2	b	6.8
			39-3	防災ボランティアコーディネーターの養成と避難場所運営体制の構築	3	3	c	3.9
			39-4	災害時要援護者への支援	4	4	b	7.1
			39-5	マンホールトイレの整備	5	5	b	7.0
			39-6	新型インフルエンザ対策	6	6	b	6.9
			39-7	地域防犯ステーションなどの増設と自主防犯パトロールの促進	7		c	4.1
40	民間住宅の耐震化補助事業を拡充します。(すぐ)			8	7	c	5.1	
41	障害者自立支援法の時限措置終了後も、市独自の負担軽減策を継続します。(すぐ)			9		b	6.9	
環境 ・まちづくり (11/25)	42	市内照明のLED化率全国1位を目指します。(4年以内)			10	8	a	8.6
	43	太陽光発電設備の設置を推進します。(4年以内)			11	9	b	6.9
	44	「E-KIZUNA Project」などの実施により、次世代自動車の普及を促進します。(4年以内)			12		c	4.5
	45	さいたま新都心のサッカープラザ計画は白紙撤回します。(すぐ)			13		c	3.9
	46	コミュニティバス路線の検討委員会を設置します。(すぐ)			14		b	7.5
	47	新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します。(3年以内)			15	10	b	5.9
	48	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(4年以内)	48-1	公園の芝生化	16		a	8.9
			48-2	学校の芝生化	17		b	6.3
			48-3	保育園の芝生化	18		b	7.0
			48-4	学校の緑のカーテン	19		b	7.0
			48-5	公共施設・家庭の緑のカーテン	20		a	9.0
48-6			公共施設の緑化	21		b	7.1	
48-7			民間建築物の緑化	22		c	4.1	
48-8			花と緑でいっぱい・区の花の制定	23		b	7.1	



※   網掛けは評価実施済みの事業

## 《第6回 8月19日(金) 開催分》

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
環境 ・まちづくり (11/25)	49	見沼田んぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。(4年以内)	49-1	見沼基本計画の策定	1	1	b	7.0
			49-2	歴史的遺産・自然環境の活用	2		b	7.2
			49-3	教育ファームの実施	3		b	6.6
			49-4	市民農園の整備	4		b	7.7
			49-5	東宮下調節池の広場整備	5		b	6.9
			49-6	高沼用水路の整備	6		b	6.8
	50	良好な住環境を守るための「高度地区」による高さ制限を導入します。(4年以内)			7	2	b	6.9
	51	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。(4年以内)	51-1	都市公園の整備	8		a	8.9
			51-2	暮らしの道路・スマイルロードの整備	9	3	b	8.4
			51-3	下水道の整備	10		b	6.9
	52	効率的な道路ネットワークを構築するため、都市計画道路を抜本的に見直します。(4年以内)			11	4	c	3.9
経済・雇用 (2/20)	53	ワーキングプアを増やさない、部局横断的な「自立生活支援対策チーム」を設置します。(すぐ)	53-1	セーフティネットの構築	12	5	b	7.1
			53-2	ステップアップの取組	13	6	b	7.0

## 《第7回 8月30日(火) 開催分》

【※網掛けは、ヒアリング事業】

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数
経済・雇用 (18/20)	54	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)	54-1	ものづくり企業支援事業	1	1
			54-2	テクニカルブランド企業認証事業	2	2
			54-3	戦略的企業誘致	3	3
			54-4	産学連携によるイノベーション創出	4	
			54-5	新規就農者支援事業	5	
			54-6	事業所内保育施設推進事業	6	
			54-7	介護福祉士資格取得支援	7	
			54-8	ホームヘルパー2級資格取得支援	8	4
			54-9	福祉介護人材の養成確保	9	
			54-10	ものづくり人材支援事業	10	
			54-11	マッチング事業	11	5
	55	市内の観光資源を有効に活用し、海外も含め観光客を積極的に誘致します。(4年以内)			12	6
	56	起業家応援のための「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)	56-1	人材育成支援	13	
			56-2	創業環境支援	14	
	57	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。(4年以内)	57-1	コミュニティビジネス育成事業	15	
57-2			コミュニティビジネス促進事業	16		
58	中小企業・小規模事業者への融資制度を充実します。(4年以内)			17		
59	企業のCSR活動の認証制度を創設・推進します。(4年以内)			18		
地域間対立を 越えて (3)	60	大宮駅東口再開発は、東日本の玄関口として経済・商業都市としての機能を高める開発を推進します。(4年以内)			19	7
	61	地下鉄7号線延伸は、経済性などを十分に考慮し、まちづくりと連動させて推進します。(4年以内)			20	8
	62	市庁舎のあり方は、地域的対立を越えた視点から、市民の声を聞きながら検討します。(4年以内)			21	